国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和８年１０月２３日
道 路 局 高 速 道 路 課

スマートインターチェンジの
高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手について
～スマートインターチェンジの新規事業化箇所を決定しました～

国土交通省は、スマートインターチェンジ２箇所について、本日付で高速道路会社へ事業許可を行いました。

あわせて、新たにスマートインターチェンジ３箇所の準備段階調査に着手することとしました。

別添①：スマートインターチェンジの検討・整備について
別添②：スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可
別添③：スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果
別添④：スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所
参　考：スマートインターチェンジの整備

＜問い合わせ先＞
道路局　高速道路課　松村（内線 38362）、梅澤（内線 38342）
代表：03-5253-8111　　直通：03-5253-8500

スマートインターチェンジの検討・整備について

別添①

○ スマートICの準備段階（地方での計画検討・調整段階）において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査（直轄調査）を実施（準備段階調査）。
○ 準備段階調査における準備会での検討や調整が整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。

地方での計画検討・調整

広域的検討
- ＩＣの必要性
- 周辺道路の現況・整備方針の確認　等

概略検討
- ＩＣの社会便益及び利用交通量
- ＩＣの位置・構造
- 周辺道路の整備計画　等

詳細検討
- ＩＣ及び周辺施設の詳細設計
- 整備費用及び負担区分
- 管理・運営方法　等

地区協議会の開催　（国・会社・地方自治体）
実施計画書の策定・提出　（地方自治体→国・機構・会社）

整備計画決定　（国）
連結許可　（国→地方自治体）
新規事業化　（国）

開　通

地方自治体での検討
（地整、会社で適宜応相談）

ICの必要性等の確認

新規準備段階調査着手

準備会

国による準備段階調査
（直轄調査）

地区協議会

新規事業化

（事業実施）

国による整備補助
（機構への補助）

スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可

別添②

スマートインターチェンジ※1の新規事業化箇所

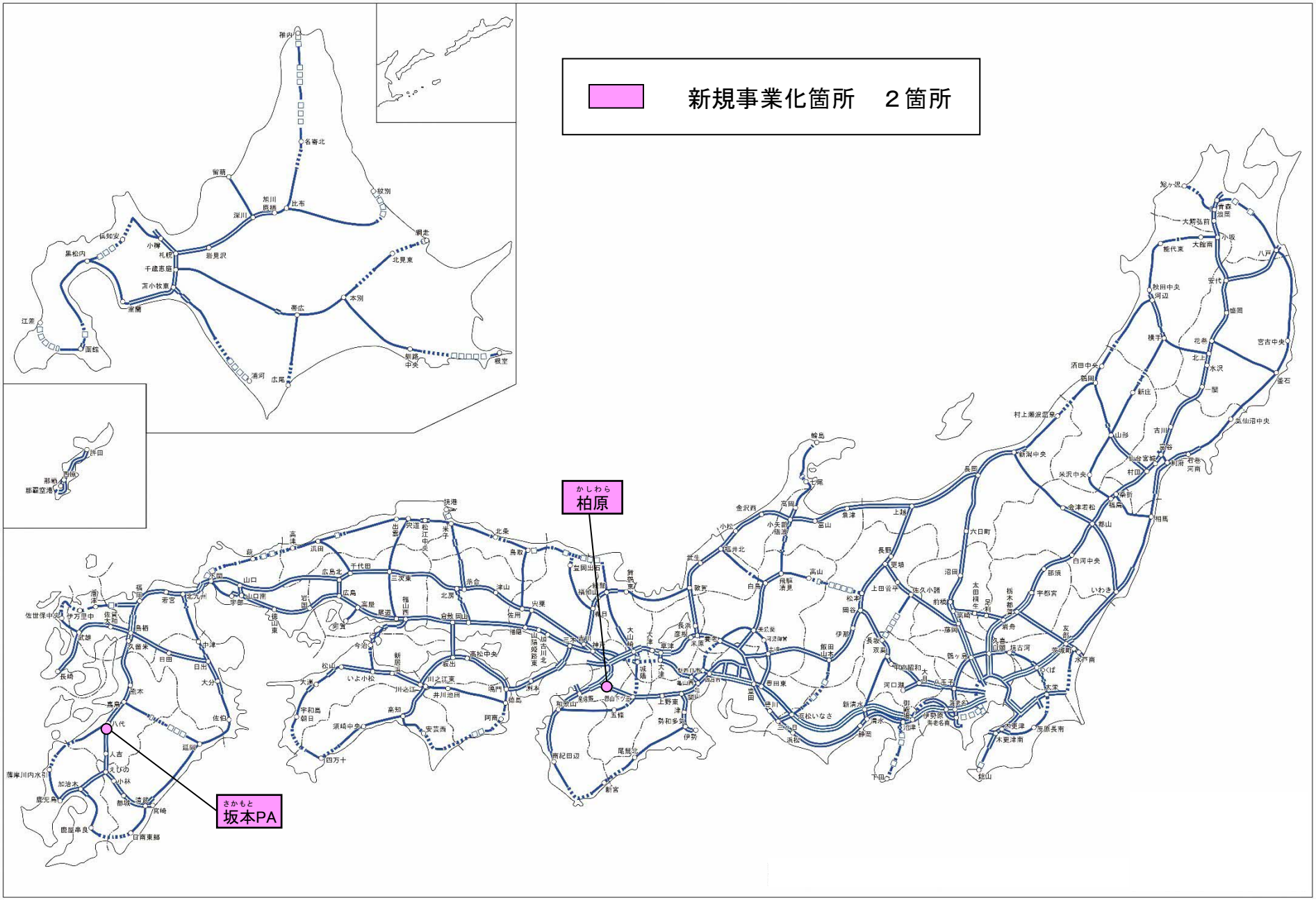
スマートインターチェンジの名称（仮称）※2	連結位置	路線名	事業主体
柏原（かしわら）	大阪府柏原（かしわら）市、羽曳野（はびきの）市	近畿自動車道天理吹田（てんりすいた）線（柏原（かしわら）IC～藤井寺（ふじいでら）IC間）	NEXCO西日本 柏原市
坂本（さかもと）PA	熊本県八代（やつしろ）市	九州縦貫自動車道鹿児島（かごしま）線（八代（やつしろ）IC～人吉（ひとよし）IC間）	NEXCO西日本 八代市

※1　スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

※2　スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

スマートインターチェンジ新規事業化箇所図

別添②



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■西名阪自動車道　柏原スマートIC(仮称)

＜概　要＞

路 線 名　：　近畿自動車道天理吹田線
（柏原IC～藤井寺IC間）

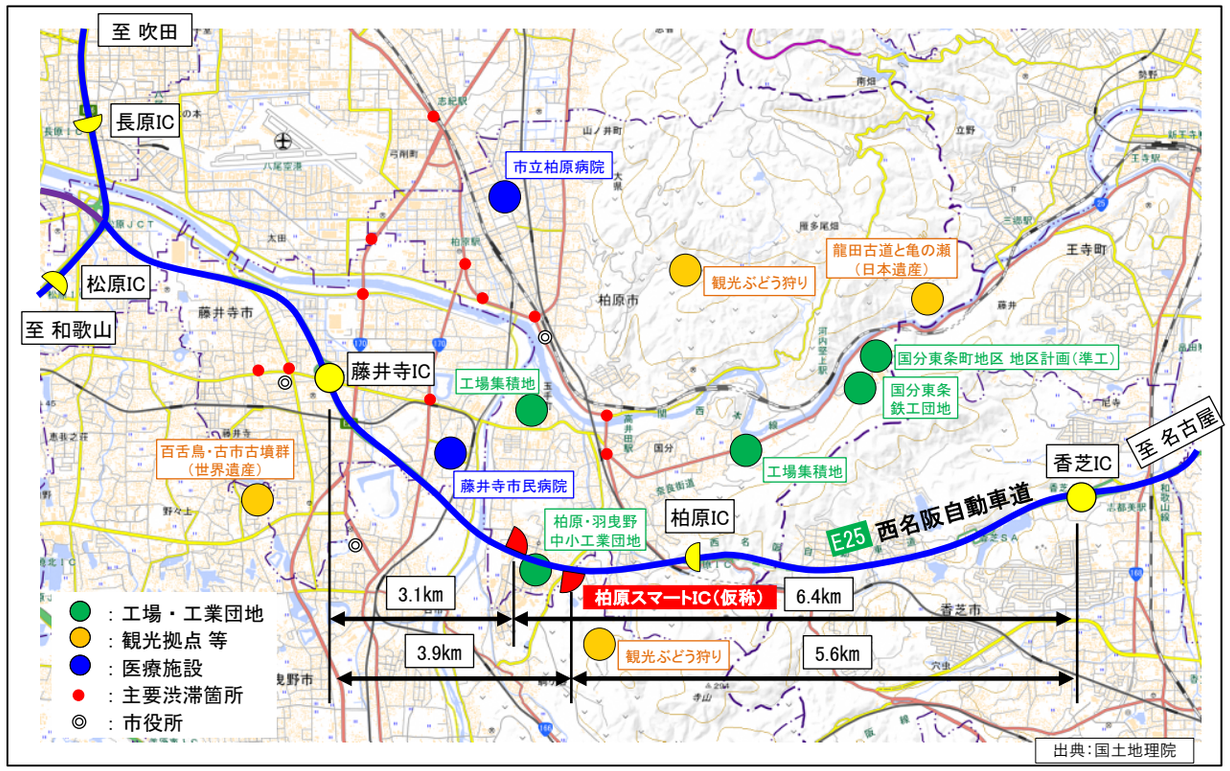
設置場所　：　（上り線）大阪府羽曳野市
（下り線）大阪府柏原市

接続形式　：　本線直結型

形　　式　：　天理方面ハーフ（2/4）

運用形態　：　全車種　24時間

＜位置図＞

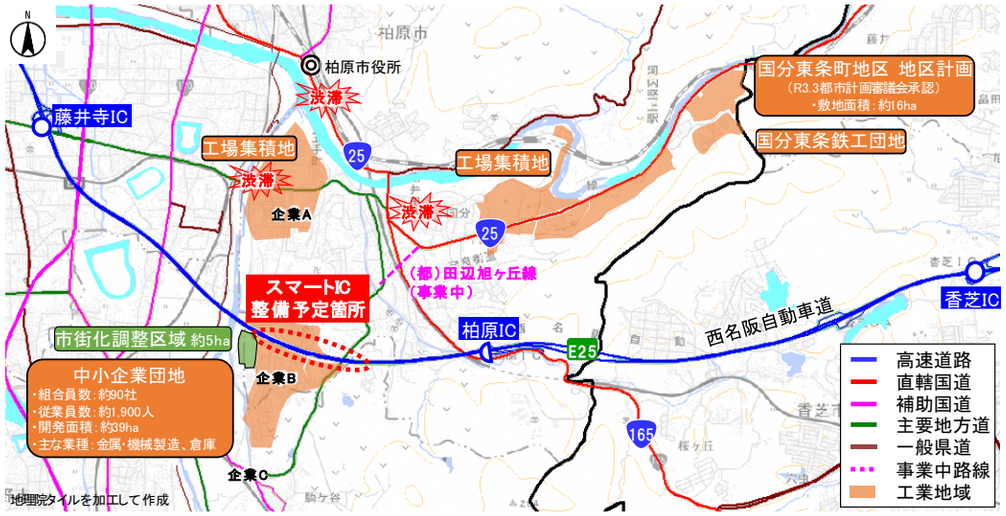


整備効果　地域産業の振興

・柏原市内の幹線道路周辺には工業団地が多数立地し、令和6年の製造品出荷額は約3,100億円と近年増加傾向。大阪府と奈良・三重方面の物流は、京都や滋賀と同様に結びつきが強い。

・スマートICの整備により西名阪自動車道へのアクセス性が向上し、奈良方面への所要時間短縮により周辺工業団地のさらなる企業の活性化につながる。

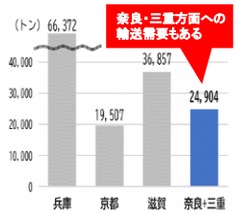
＜柏原市周辺の工業団地＞



＜柏原市の製造品出荷額＞

出典：工業統計調査（H28～R1）、令和3年経済センサス(R2)、経済構造実態調査（R3～R6）

＜大阪府と周辺府県間のトラック流動量＞



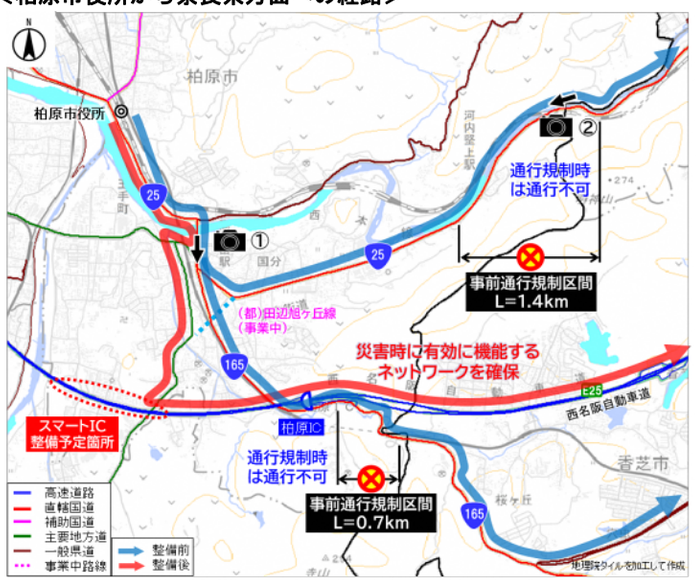
出典：R3全国貨物純流動調査
※高速道路利用あり３日間トラック計

整備効果　防災体制の強化

・東西軸である国道25号や国道165号には事前通行規制区間が2箇所存在しており、平成25年以降に7回通行止めが発生するなど、豪雨時には東西方向が寸断され、柏原市内の交通がマヒする事象が発生。

・スマートICの整備により、国道25号が通行止めとなった場合でも、西名阪自動車道が奈良県や名古屋方面への代替路となり、災害に強い道路ネットワークが構築される。

＜柏原市役所から奈良県方面への経路＞



①国道25号通行止め状況

②国道25号法面崩落状況

スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■九州自動車道　坂本PAスマートIC（仮称）

＜概　要＞

路 線 名　：　九州縦貫自動車道鹿児島線
（八代IC～人吉IC間）

設置場所　：　熊本県八代市

接続形式　：　ＳＡ・ＰＡ接続型

形　　式　：　全方向（4/4）

運用形態　：　全車種（車長12.0m以下）　24時間

＜位置図＞

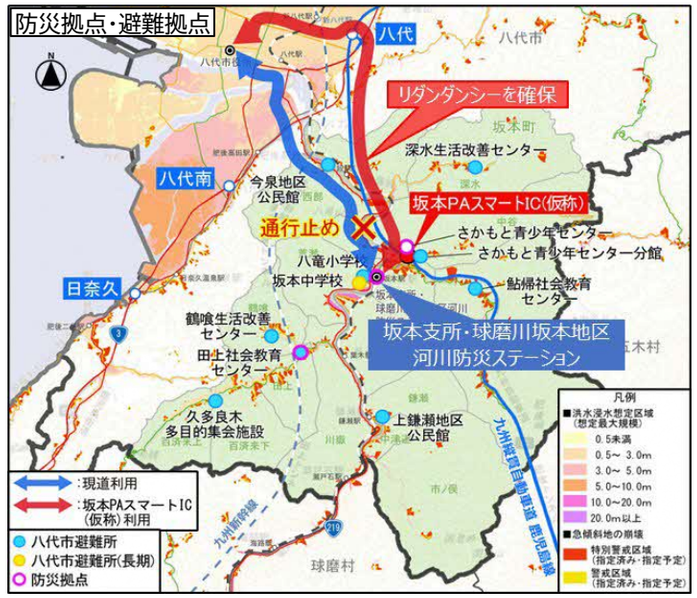
出典：国土地理院

整備効果 防災機能の強化

・令和2年7月豪雨災害では土砂崩れや河川が氾濫し、国道219号等の道路や橋梁が甚大な被害を受け多くの集落が一時的に孤立したが、坂本PA緊急開口部の開放により緊急救援ルートが確保され、救助・救援活動に大きな役割を果たした。

・令和8年熊本地震では、坂本PAの仮設出入口を活用し、鹿児島方面から被災地への緊急車両通行ルートを確保するなど災害復旧活動に寄与した。

・スマートICの整備により国道219号の代替路の恒久的な確保や「球磨川坂本地区河川防災ステーション」等の防災拠点へのアクセス向上が図られ、迅速な救助・救援活動が可能になり、防災機能強化が期待される。

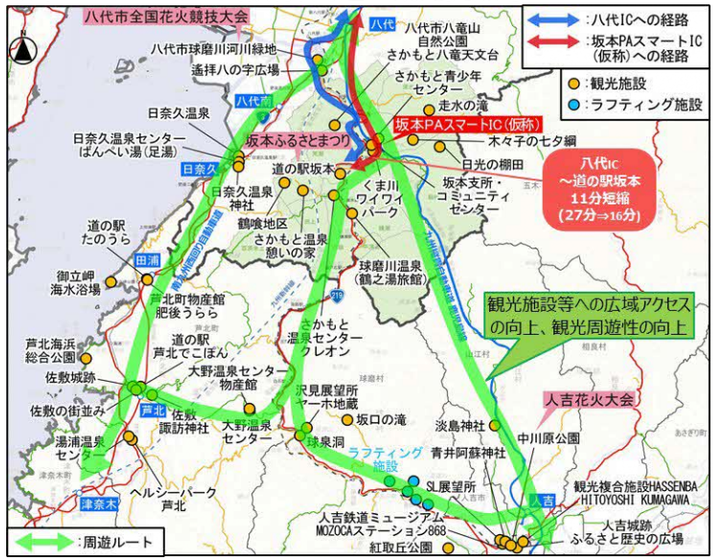


整備効果 地域観光の振興

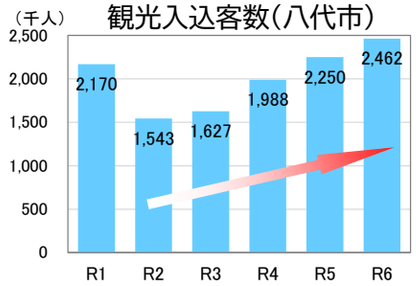
・八代市では定住自立圏を形成する氷川町、芦北町と取り組むシトラス観光圏等の県南地域と連携した広域観光を推進し、観光入込客数は令和2年以降増加に転じている。

・スマートICの整備により、坂本町への広域アクセスが向上し、坂本町を含めた新たな観光周遊ルートの形成等が図られ、交流人口・滞在時間の増加等による観光振興が期待される。

坂本PAスマートIC(仮称)周辺の観光拠点等



坂本ふるさとまつりの様子



資料：八代市

スマートインターチェンジ※1の新規準備段階調査着手箇所

別添④

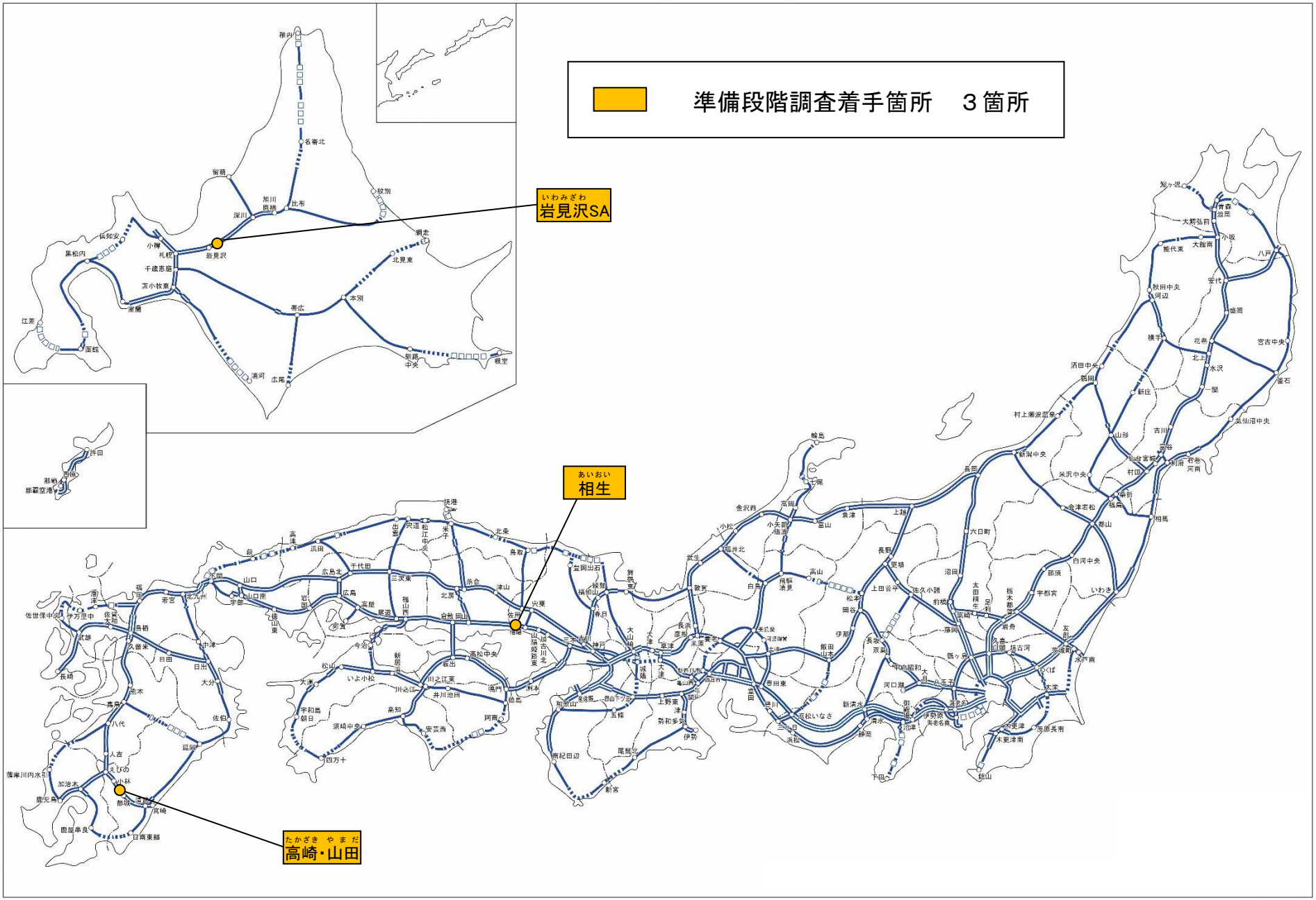
スマートインターチェンジの名称（仮称）※2	検討位置	路線名
岩見沢(いわみざわ)SA	北海道岩見沢(いわみざわ)市	北海道縦貫自動車道函館名寄(はこだてなよろ)線（岩見沢(いわみざわ)IC～三笠(みかさ)IC間）
相生(あいおい)	兵庫県相生(あいおい)市	山陽自動車道吹田山口(すいたやまぐち)線（龍野西(たつのにし)IC～赤穂(あこう)IC間）
高崎(たかざき)・山田(やまだ)	宮崎県都城(みやこのじょう)市	九州縦貫自動車道宮崎(みやざき)線（高原(たかはる)IC～都城(みやこのじょう)IC間）

※1　スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

※2　スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所図

別添④



スマートインターチェンジの整備

参 考

＜ スマートインターチェンジ とは＞

○スマートインターチェンジは、通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジ

［SA・PA接続型］
→サービスエリアまたはパーキングエリアに接続

［本線直結型］
→高速道路本線に接続

○ETC専用のため、料金徴収施設を集約する必要がなく、コンパクトな整備が可能

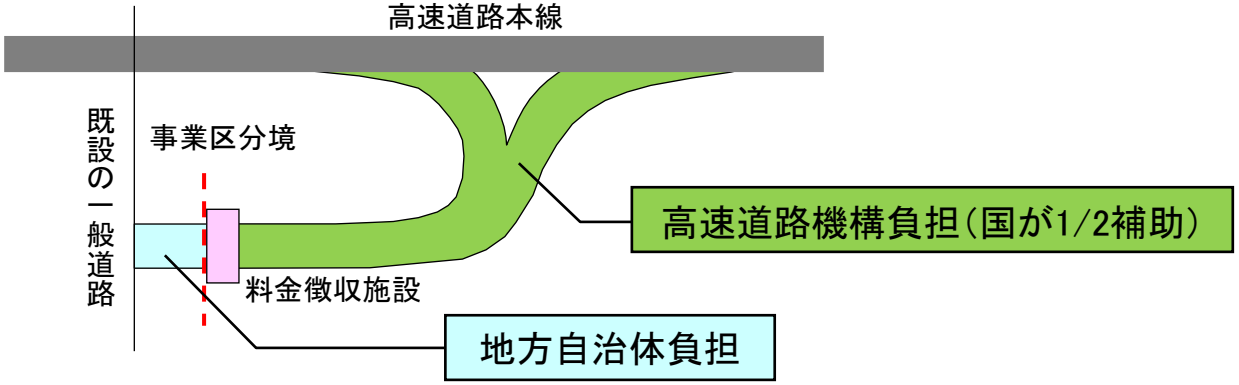
○料金徴収にかかる人件費も節約可能

我が国の高速道路のIC間隔は平均約10kmで、欧米諸国の平地部における無料の高速道路の2倍程度

↓

平地部でIC間隔を欧米並みの約5kmとなるよう整備を推進

開　通	167箇所
事業中	51箇所
準備段階調査	3箇所

（令和8年10月23日時点）

＜ 負担区分 ＞